

美郷町 合併10周年記念号

2 合併10周年を迎えて
松田町長・高橋議長

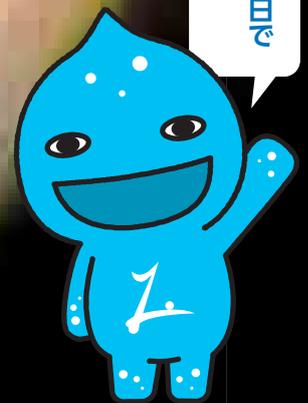
4 「美郷町」10年の軌跡

広報

美郷



美郷町は平成26年11月1日で
合併10周年です。



MISATO

The 10th Anniversary!!

子どもの食育や生活習慣病の予防食を勉強している美郷町食生活改善推進協議会（食改=しょっかい）会員の皆さんが、美郷町のお米と野菜を使ったケーキで美郷町合併10周年をお祝いしてくれました。

合併10周年を迎えてく途の中

『私の歩いたあとには／花が咲いた
私の歩いたあとには／泉が湧いた』

私の歩いた時は／荊棘の途であったが

私の歩いた時は／石くれの途であったが

こんな美しい花が／咲こうとは思わなかった

こんな清らかな泉が／湧こうとは思わなかった

ただ一歩二歩省みて／静かに歩いた

ただ一瞬一瞬心から／踏みしめて歩いた

私はやはり／いい途を歩いたのだから

荊棘の棘にもさされたけれど／石のかげらにも躓いたけれど』

明治から昭和にかけて活躍した詩人河井醉茗氏の「歩いた途」(※)と題する詩です。私が県職員を辞し、町村行政にお世話になる際、上司からの餞として出会った詩です。この詩に込めた想いに共感し、詩の言葉を信じ、努力の源泉にしてきた詩でもあります。

またこの詩からは、「歩く姿勢」についても考えさせられます。この詩の主人公は果たしてどう

いう姿勢で歩いたのだろうか

と。省みて静かに歩く姿勢、

心から踏みしめて歩く姿勢と

はどういう姿勢なのか。数多

の思いの辿り着くところは、

謙虚さを持ち合わせながらし

っかりとした意志で歩く姿勢、

背筋を伸ばし凛として歩く姿

勢です。

さて、みなさんの期待と不

安を背負って歩んできた美郷

町が、合併10周年の節目を迎えました。みなさん

には、これまでの各般の取り組みをしっかりと受

け止めていただき、比較的順調な歩みの10年間た

つたと総括できますことに、改めて心から感謝を

申し上げます。みなさんの美郷町は、課題を着実に

解決しながら望む姿に確実に近づいています。

やや胸を張ってこうした総括ができる核心には、

みなさんの歩く姿勢、言い換えて自治に対する矜

持が存在しています。歩く姿勢は即ち生きる姿勢です。誇り高く生きたいところに必ず受容と寛容、深慮と実践が存在しています。そして困難を乗り越えるためには、そのすべてが必要です。その積み重ね結果が現在の美郷の姿です。

しかしその歩く「途」はまだまだ続きます。これから荊棘に刺され、石のかげらに躓くこともあるかも知れません。でも私たちは前に進んでいきます。何故ならこの10年の実績があるからです。改めてその自信と決意を確認し合いたいと思います。それこそがこの度の節目に内包される大きな意義です。さあ、背筋を伸ばし歩き続けていきましょう。

※「岩波文庫 醉茗詩抄」より



美郷町長

松田知己





美郷町議会議長

高橋 猛

町が順調に合併10周年を迎えられましたことを、町民の皆様と共に慶びたいと思います。振り返ってみますと10年前、平成の合併秋田県第1号として期待と不安が入り混じった状況でのスタートでしたが、私は年月を重ねるごとにこの合併は良かった、美郷町で本当に良かったという思いを強く感じております。

国では基礎自治体の定義を、とかく人口規模で示しがちですが、私は人口ではなく面でも考えることが重要だと思います。美郷大使をしていただいている佐々木毅さんが合併前、講演の中で「合併が進んでいないのは東京と北海道である。なぜ進まないかというところと東京はあまり人口が多すぎるからであり、北海道は面積が広すぎるからだ」という話を伺ったことがあります。したが、本町は、町の中心部から車で20分くらいであり、まさに面的にも適正な規模の合併であったと思います。

きました。また人口減少、少子化問題は本町のみならず全国的な難題となってきました。グローバルにみると人の流れはまだまだ大都市に向かっており、その流れを変えるのは並大抵なことではありませんが「巨大化したものは、いつかは立ち行かなくなる」と私は思います。ふるさと回帰、里山資本主義的な思想が広がり、人々の意識が地方に向けられる時がくることに希望を持ちながら地域づくりをしていけば、まだまだ地方には豊かな魅力のある未来があると思います。

いま町は、合併当初心配された財政状況も改善され健全な状況になってきておりますが、この先、財政規模がかなり縮小されることが想定されており、より一層の経営努力が求められて

未来の美郷町に向かって

「美郷町」10年の軌跡

平成16年度
平成17年度

平成16年度（2004年度）

11月1日 ・美郷町誕生
11月7日 ・美郷町消防団が発足し、484人の団員でスタート

11月10日 ・合併後、初議会が開催。議員数48人
初代町議会議長に後松一成氏

11月28日 ・初代町長に松田知己氏当選
12月 ・美しい日本の歩きたくなるみち500選に「松並木と清水の里を訪ねるみち」が選ばれる

2月7日 ・平均積雪120cmを超えたため、豪雪対策本部を設置

2月8日 ・町のシンボルとなる町の木「赤松」、町の花「ラベンダー」、町の鳥「雁」、町の魚「ハリザッコ（イラバトミヨ）」を制定

2月13日 ・美郷町合併記念式典を開催

3月 ・美郷21子どもプランを策定

平成17年度（2005年度）

4月1日 ・旧千畑町で平成15年に認定された「幼保一体的運営特区」が美郷町全域に拡大され、町内三つの幼稚園・保育園で幼保合同保育開始

4月 ・町民に町の行政施策を紹介するまちづくりガイド発行

7月10日 ・町農業委員会委員一般選挙を実施
定数20人に対して21人が立候補し、投票率は70・85%

平 成16年11月1日、千畑町、六郷町、仙南村が合併し、美郷町が誕生しました。「平成の大合併」で秋田県内トップを切った美郷町は、平成26年11月1日で合併10周年を迎えました。本号では、これまでの道のりについて紹介します。

3 庁舎で開庁式
分庁方式を採用した美郷町。平成16年11月1日、三つの分庁舎ではそれぞれ開庁式が行われ、銘板の除幕やテープカットにより美郷町の誕生を祝いました。



初代・美郷町長は松田知己氏

平成16年11月29日、役場六郷庁舎に初登庁する松田町長。



合併記念式典を開催

平成17年2月13日、美郷町合併記念式典が町総合体育館アスパル（現美郷中学校体育館）で開催され、来賓や関係者、町民など約1000人が出席して美郷町の誕生を祝いました。式典では、美郷町誕生に尽力した功労者の表彰が行われたほか、町の木・花・鳥・魚がお披露目されました。



美郷総合計画を策定

「美郷がいちばん、すきです美郷」

美郷町のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくため、その基本的な方針や将来像、目標を掲げ、その実現のための主要施策や施策事業を推進する「美郷総合計画」が平成17年8月30日から開かれた町議会定例会で可決されました。

この総合計画は平成17年度を基準年度とし、目標年度を平成26年度とした10年間の計画となっています。

町のシンボルが決定

町のシンボルとなる町の木・花・鳥・魚が平成17年2月8日に制定され、町の木「赤松」、町の花「ラベンダー」、町の鳥「雁(かり)」、町の魚「ハリザッコ(イバラトミヨ)」に決定しました。

町民憲章を制定

平成17年8月29日には、美郷町民が生活を営む道しるべとなるとともに、一体感の醸成を早期に図ろうとする「町民憲章」が制定されました。

町民歌「光あふれて」と イメージソング「若いいぶぎ」を制定

町民歌の歌詞は、平成17年9月20日から10月31日まで全国から公募し、41の応募作品の中から町内有識者5人による町民歌歌詞選定委員会が選定し、補作や字句の修正を行い、町が決定しました。イメージソングについては、当初は制作の予定はなかったものの、選定委員会による選定の過程で、最終的に町民歌の候補として残った2作品が、いずれも秀作であったことから、イメージソングとして採用し、制作することになりました。

「幼保一体的運営特区」が全町に拡大

旧千畑町で平成15年に認定された「幼保一体的運営特区」が美郷町全域に拡大され、平成17年4月1日より、「なかよし園(千畑幼稚園・保育園)」、「わくわく園(六郷幼稚園・保育園)」、「すこやか園(仙南幼稚園・保育園)」の町内3地区の幼稚園・保育園で幼保合同の保育が開始されました。



東京都大田区と

「友好都市提携」と「防災協定」を締結

平成17年11月5日に、東京都大田区と「友好都市提携」および「災害時における大田区と美郷町の相互応援に関する協定(防災協定)」を締結しました。



東京都大田区との交流は、同区に六郷という地名があることから「六郷」つながりで旧六郷町との間で平成3年からスタート。今回の「友好都市提携」の締結により、交流をさらに深めていくものです。

また、平成8年に旧六郷町と大田区との間で締結していた防災協定を、美郷町として新たに締結しました。

7月21日(〜24日)

- ・第32回東北総合体大会バドミントン競技会がリリオスで開かれる

8月29日

- ・町民憲章を制定

9月

- ・美郷町基本構想 町議会定例会で可決

9月2日(〜4日)

- ・第32回東北総合体大会自転車競技会が開かれる

9月18日

- ・町議会議員一般選挙を実施
定数22人に対して31人が立候補し、投票率は86・83%

10月5日

- ・町議会議長に伊藤福章氏選出

10月29日(〜30日)

- ・美郷フェスタ2005を六郷地区で開催

11月1日

- ・美郷町合併1周年

11月5日

- ・東京都大田区と「友好都市提携」および「災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定(防災協定)」を締結

12月

- ・美郷町男女共同参画計画みさと計画」を策定

1月5日

- ・平成18年豪雪」で豪雪対策本部を設置
最大積雪深は千屋善知鳥坂観測点185cm

2月7日

- ・地域が一体となって子どもたちの安全を守ろうと「子ども見まもり隊」ボランティアを結成

2月27日

- ・「美郷町町民歌」を制定
作詞 滝田常晴 作曲 津雲優

2月

- ・「美郷町イメージソング」を制定
作詞 南英市 作曲 津雲優

3月

- ・町内3地区にある施設や行事、文化に触れる、美郷めぐりを「春」「夏」「秋」「冬」の年4回行い、延べ108人が参加

3月

- ・福祉医療制度、平成18年2月診療分から就学前までの乳幼児の医療費が無料に
- ・「美郷町地域防災計画」を策定
- ・「行政経営プラン」「行財政改革大綱」「集中改革プラン」を策定
- ・「美郷町社会教育中期推進計画」を策定
- ・誘致企業ガイド発行

「美郷町」10年の軌跡 平成18年度〜平成19年度

「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画 内閣府より「地域再生計画」認定書が交付

平成18年4月18日、地域振興を国が支援する「地域再生計画」に関する認定書式が首相官邸で行われ、松田町長に小泉純一郎首相（当時）から認定書が手渡されました。

本町で、名水百選に選定されている六郷湧水群に着目し、国に町全域を対象とした「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画」を提出し、認定されたものです。



11月1日を「町の日」に制定

平成18年9月1日、美郷町が誕生した11月1日を「町の日」と制定しました。これを記念して、11月3日、仙南公民館（現美郷町公民館）で町の日記念式典を開催しました。

記念式典では、長年にわたり町政発展に寄与された18人の方々を表彰したほか、本町出身で元東京大学総長の佐々木毅さんを講師に迎え、「子ども教育と大人の責任〜私の体験的教育論〜」と題して記念講演が行われました。



秋田わか杉国体 多くの町民に支えられ開催

秋田県で46年ぶりとなる第62回国民体育大会「秋

バドミントン競技（平成19年10月5日〜8日）



平成18年度（2006年度）

- 4月1日
 - ・ 町内の空き家、空き地、空き店舗の情報を登録、提供する空き家等情報登録制度開始
 - ・ 町内10の公共施設で指定管理者制度を導入
 - ・ 地域包括支援センター設置
 - ・ 厚生労働省との相互人事交流を実施する
- 4月18日
 - ・ 「しずのまち」美郷町六郷湧水群再生計画」に対し、内閣府より「地域再生計画」認定書が交付される
- 8月20日（22日）
 - ・ 第41回全国都道府県対抗自転車競技大会が開かれる
- 8月23日
 - ・ 町の公用車により防犯パトロールをする、青色回転灯パトロール車出発式を行う
- 9月1日
 - ・ 11月1日を「町の日」と制定
- 10月1日
 - ・ 美郷町観光協会を設立
- 10月23日
 - ・ 町商工会と「災害時応急生活物資供給協力協定」を結ぶ
- 11月3日
 - ・ 町の日記念式典を開催
- 11月6日
 - ・ 本町出身で元東京大学総長の佐々木毅氏を講師に記念講演を行う
 - ・ 町功労者18人を表彰
- 11月16日
 - ・ 町内企業と連携を促す「美郷町企業連携協議会」を設立
- 11月16日
 - ・ 全国に先駆けて、町内全ての幼稚園・保育園が「認定こども園」の認定を受ける
- 12月1日（3日）
 - ・ バドミントン日本リーグ2部秋田大会（秋田わか杉国体バドミントン競技リハーサル大会）が開かれる
- 1月28日
 - ・ 男女共同参画社会推進フォーラムを開催
- 1月
 - ・ 美郷町企業ガイド発行
- 3月
 - ・ 町の「地域の輪と和」を広げるレンタサイクル

田わか杉国体」が平成19年9月29日に開幕し、11日間にわたって県内各地で熱戦が繰り広げられました。

美郷町では自転車とバドミントンの二つの競技会を開催。各都道府県を代表するアスリートが集い、夢を目指して試合に臨む選手の姿は、私たちに大きな感動を与えました。

秋田県勢は、初の天皇杯ならびに皇后杯を手にする大躍進を遂げました。

自転車競技（平成19年9月30日～10月4日）

◆トラックレース

六郷自転車競技場（現美郷町自転車競技場）を会場に行われたトラックレース。実況放送するアナウンサーの声や競技用自転車の走る音が響き渡る会場では、本県出身者が出場すると観客の応援にも熱が入りました。

秋田県勢は、ポイントレースで第2位、ケイリンで第3位、総合で第5位に入賞しました。

◆ロードレース

美郷町と大仙市の一般道路に設けられた特設コース上を、時速40kmで疾走するロードレース。選手たちの姿を見ようと沿道には大勢の人々が集まり、大声援を送りました。

秋田県勢は、成年男子が個人ロードレース第3位に入賞しました。



バドミントン会場となった総合体育館リリオス。風光で試合に影響が出ないよう窓や出入口が締め切られた会場では、選手の気迫ある試合と観客の熱を帯びた声援によって、熱気に包まれました。秋田県勢は、成年男子が優勝、成年女子が準優勝を勝ち取り、男女総合成績第1位に輝きました。

民泊 美郷の味と心でおもてなし



国体に参加する選手や監督の宿泊を地元一般家庭で受け入れる民泊。美郷町では仙南地区の協力家庭124世帯において、バドミントン競技の選手や監督約470人を民泊でおもてなしました。

試合会場には、各団体協力会から応援団が駆け付け、受け入れた各都道府県の選手に声援を送るなど、選手たちと民泊世帯による心温まる交流が行われました。

また、わか杉国体で本町を訪れた選手や監督の皆さんに美郷の味をアピールするため、美郷産あきたこまちや町内で作られた漬け物やお菓子を詰め合わせた「美郷まるごとパック」をプレゼントしました。

ワルの取り組みが、毎日・地方自治大賞奨励を受賞
美郷町地販地消推進条例を施行

平成19年度（2007年度）

- 4月1日 ・美郷町定住促進奨励金制度開始
- 4月29日 ・農地・水・環境保全向上対策事業を始める
- 4月29日 ・秋田県との相互人事交流を実施する
- 6月 ・ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさん（環境活動家）が来町
- 7月 ・「美郷のまちづくり町民アンケート」の実施
- 7月12日 ・美郷町定住促進ガイド発行
- 7月12日 ・町内全小学校5、6年生を対象としたスペシャルマスター!! 夢講座を永田萌さん（イラストレーター・絵本作家）、園城三花さん（フルート奏者）を講師に開催
- 8月15日 ・秋田わか杉国体・炬火採火式・出発式が行われ、千屋小学校児童、松田町長が参加
- 8月20日 ・美郷町堆肥センター建設工事着工
- 9月29日（～10月8日） ・第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」開かれる
- 9月30日～10月4日 自転車競技
- 10月5日～8日 バドミントン競技
- 11月3日 ・町の日記念式典を開催
- 11月20日 ・地方自治法施行60周年記念式典で、美郷町が総務大臣表彰を受賞
- 12月20日 ・美郷町非核平和宣言をする
- 12月20日 ・「美郷町財政健全化計画」、「公債費負担適正化計画」、公営企業ことしの「経営健全化計画」を定める
- 1月11日 ・第1回地域公共交通会議で「美郷町地域公共交通計画」による新たな交通手段として予約制乗合タクシーの実施が承認
- 1月20日 ・第1回美郷町芸術文化賞授与式を行い、4個人1団体表彰
- 2月 ・「美郷町地販地消推進計画」を策定
- 3月19日 ・美郷町地販地消シンポジウム開催

「美郷町」10年の軌跡 平成20年度～平成21年度

美郷町水環境保全条例を施行

平成20年4月1日、美郷町水環境保全条例が施行されました。この条例は、町と町民、事業者等が水環境の保全について、共通の認識を持ち、それぞれの立場で具体的な活動に取り組み、将来にわたる水に対するイメージの醸成を図るため制定されました。



町では、かけがえない水環境を未来へつなぐため、また町内外で「美郷町＝清浄な水」という印象が形成されるよう、水環境保全に関するさまざまな施策を展開しています。



予約制乗合タクシーの運行を開始

地域内交流と公共交通空白地域の解消に向けて、平成20年4月1日から予約制乗合タクシーの試験運行を開始しました。予約制乗合タクシーは、運行区域と運行ダイヤが定められており、予約があった時だけ運行します。平成21年度には本運行を開始し、通院や買い物等のための身近な交通手段として、多くの方に利用されています。



平成20年度（2008年度）

- 4月1日
 - ・美郷町水環境保全条例を施行
 - ・美郷町堆肥センター稼働開始
 - ・東京都大田区との相互人事交流を実施する
 - ・「美郷町における公共施設のあり方」検討報告書を取りまとめる
 - ・美郷のわらしこ支援ガイドを発行
 - ・金沢小学校児童による田園アートの田植えを行う
- 4月
 - ・六郷東根小学校児童・保護者により「七滝水の森」に記念植樹をする
- 6月11日
 - ・美郷町ふるさと美郷応援寄附条例を施行
- 6月
 - ・町内全小学校5、6年生と全中学校1、2年生を対象としたドリウム体験！ほんもの講座を青島広志さん（音楽家）と4人の声楽家を講師に開催
- 7月8日
 - ・ごみ処理の有料化を完全実施
- 7月
 - ・町議会定例会において、議員定数を18とする
- 9月5日
 - ・美郷町議会議員定数条例が、議員発議で可決
- 10月13日
 - ・水の郷シンポジウムを開催
- 10月
 - ・東京都大田区内の米穀販売店26店舗で美郷米の販売開始
- 12月22日
 - ・町商工会青年部が発売した「美郷まんま」が町内6店舗で販売開始
- 1月1日
 - ・美郷町地販地消推進会議が「美郷まるごとガイドブック」を発行
- 2月6日
 - ・町商工会女性部が発売した「美郷ため中」が町内10店舗で販売開始
- 2月
 - ・東京都大田区浴場組合に、美郷町プチ特産品コーナー設置される
- 3月13日
 - ・本堂城廻村絵図が秋田県有形文化財に指定
- 3月
 - ・防災行政無線施設の親局、中継局を整備
 - ・「美郷町食育計画」を策定

地販地消 美郷で買って、美郷を元気に！

美郷町地販地消推進会議は、町内の商店・企業・サービス業など140事業所を掲載した「美郷まるごとガイドブック」を発行しました。

町民の皆さんに広く町内の商店・企業を紹介し、認知してもらい地域内での購買意欲を高めていくことを目的に、町内各世帯に配布しました。

また、美郷町商工会青年部が企画した「美郷まんま」、同女性部が企画した「ためき中華」の開発を特産品として支援し、「美郷まんま」は平成20年12月から町内6店舗で、ためき中華は「美郷ためき中」として平成21年2月から町内10店舗で販売を開始しました。



「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定

平成21年6月、「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定しました。

公共施設については、平成19年度に再編に向けた検討に着手し、施設分類ごとの再編における方向性を決定。パブリックコメントの募集や住民意見交換会等を経て、再編計画を策定しました。

学校施設については、平成19年度から「美郷町立学校の将来について考える」事業に着手し、諮問機関を設けて課題事項の検討を重ねてきました。パブリックコメントの募集や住民意見交換会等を経て、再編計画を策定しました。

美郷町合併5周年式典を開催

平成21年11月1日、美郷町合併5周年記念式典が仙南公民館（現美郷町公民館）で開催され、来賓や関係者、町民など約400人が出席しました。

式典では、美郷町功労者・貢献者の表彰やイラストレーター・絵本作家の永田萌さんの記念講演が行われたほか、町内5歳園児がお遊戯を披露し、美郷町の5歳の誕生日をお祝いしました。



美郷町合併5周年を記念し、平成21年10月10日から11月1日にかけて、永田萌さんによる絵画展が学友館で開催され、連日多くの方々が訪れました。開催中は、「永田先生と親子でスケッチ夢講座」や「絵本のおはなし会」などが行われ、参加者たちは永田さんから絵のアドバイスをいただいたり、記念撮影をしたりしました。



平成21年度（2009年度）

- 4月
 - ・美郷町総合計画で「水環境保全」と「交流促進」をプロジェクト化
- 4月1日
 - ・予約制乗合タクシー本運行開始
 - ・美郷町社会福祉協議会との相互人事交流実施
 - ・美郷町商品券事業振興会より町が支援したプレミアム付商品券を発売したところ、1000セットを完売
- 4月22日
 - ・美郷町住民活動センター「みさぼーと」オープン
- 6月
 - ・「美郷町公共施設再編計画」「美郷町学校再編計画」を策定
- 6月9日
 - ・町内7小学校の4年生児童、関係者約320人が参加し、09七滝「水の森」記念植樹行
- 7月10日
 - ・町内全小学校4、5年生と全中学校2、3年生を対象としたことんやる気の夢講座を、米村でんじろうさん（サイエンスプロデューサー）を講師に開催
- 7月
 - ・「美郷のまちづくり町民アンケート」を行う
- 9月16日
 - ・美郷町都市農村交流推進協議会を設立
- 10月5日
 - ・町議会議長に高橋猛氏選出
- 10月10日（～11月1日）
 - ・学友館で美郷町合併5周年記念特別展「永田萌の世界／花の国の妖精たち」を開催
- 11月1日
 - ・美郷町合併5周年記念式典を開催
 - イラストレーター・絵本作家の永田萌さんを講師に記念講演を行う
- 11月
 - ・除雪体制を全町直営・委託併用方式とし、事業のサービスの充実や平準化を図る
- 1月22日
 - ・「美郷町公共施設及び学校再編による空き施設等活用庁内検討委員会」を設置
- 3月
 - ・美郷わらしこプランを策定
 - ・公募した白色ラベンダー名称が「美郷雪華（みさとせっか）」に決定

「美郷町」10年の軌跡 平成22年度〜平成23年度

美郷総合計画「後期基本計画」スタート

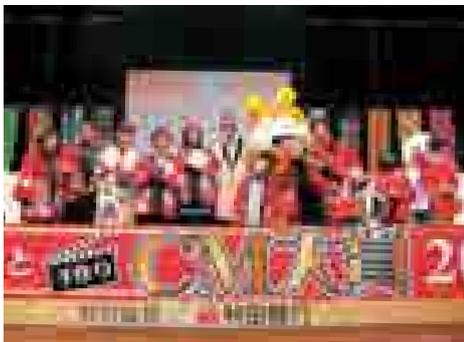
平成17年度に策定した美郷町総合計画「前期基本計画」が平成21年度で終了したことから、本町を取り巻く社会経済情勢を見極め、平成22年度から平成26年度まで期間とする「後期基本計画」を策定しました。

後期基本計画から、重点的に取り組んでいく事業施策を新たに「まちづくり戦略プロジェクト」として位置付け、「農商工連携（地産地消）」「子ども育成」「水環境保全」「交流促進」「安全・安心」の五つをプロジェクト化しました。

あきたふるさと手作りCM大賞2010で美郷町が最優秀賞を受賞

秋田朝日放送主催の「あきたふるさと手作りCM大賞2010」で、町と町観光協会の若手有志が合同で制作したCMが最優秀賞を受賞しました。

町の財産である清水をテーマに制作されたCMは、町内27カ所の清水の名前をメロディにのせて紹介しています。CMは秋田朝日放送で東北6県を含め年間365回放送され、多くの人に町の魅力を届けました。



町の魅力発信するための新たに美郷大使を委嘱

町では、学識経験者や文化人などで、知名度の高い方々に町の魅力発信やまちづくりへの提言をいただくこと、新たに「美郷大使」を委嘱しました。平成22年には、美郷町出身の町田睿さん（フイディアホールディングス(株)取締役会議長）と佐々木毅さん（元東京大学総長、本町にゆかりのある永田萌さん（絵本作家・イラストレーター）を美郷大使に委嘱しました。平成25年には、高階秀爾さん（美術評論家・大原美術館長）を美郷大使に委嘱しました。

東日本大震災被災地への支援の輪広がる

平成23年3月11日に、三陸沖を震源とする「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）」が発生し、本町では震度4の強い揺れを観測しました。同日、美郷町災害警戒部を設置し、被害状況等の把握、要援護者の安全確認、避難所の設置、被災者受入施設の開設などが行われました。

被災地への救援物資の受付を行ったところ、多くの町民の方々からご協力をいただき、3月20日には、約150箱分の物資を秋田県仙北地域振興局に搬入しました。

3月23日には、震災で大きな被害を受けた岩手県大船渡市に、米や水、味噌などの支援物資を輸送しました。



平成22年度（2010年度）

- 4月1日
 - ・六郷小学校開校
 - ・美郷町総合計画「後期基本計画」スタート
- 4月
 - ・美郷町農業委員会選挙委員定数条例の全部改正により、定数を20人から16人に改正
- 7月26日
 - ・美郷町出身の町田睿さん（フイディアホールディングス(株)取締役会議長）と佐々木毅さん（元東京大学総長、本町にゆかりのある永田萌さん（絵本作家・イラストレーター）を美郷大使に委嘱
- 8月25日
 - ・農林水産省選定「ため池百選」に一丈木ため池が選ばれる
- 8月
 - ・「美郷町災害時等要援護者支援実施計画」を策定
- 9月
 - ・ひとり暮らしの高齢者などを対象に緊急情報キット「みさと安心パック」の配布を開始
 - ・過疎地域自立促進特別措置法に基づき「美郷町過疎地域自立促進計画」を策定
- 10月
 - ・粗大ごみの戸別有料収集開始
- 11月23日
 - ・あきたふるさと手作りCM大賞2010で美郷町が最優秀賞を受賞
- 3月11日
 - ・平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
- 3月
 - ・「第2次美郷町社会教育中期推進計画」を策定
- 1月
 - ・町民からの被災地への救援物資、段ボール約150箱分を秋田県仙北地域振興局へ搬入
- 3月20日
 - ・岩手県大船渡市に米2トン、水540リットル、味噌200キログラム、醤油300リットル、乾燥野菜等の支援物資を輸送
- 3月23日
 - ・

かけがえのない水環境を未来へ 名水サミットin美郷

平成23年7月1日、全国の名水百選の所在する市町村からなる全国水環境保全市町村連絡協議会の全国大会「名水サミットin美郷」が美郷町公民館で開催され、関係者や町民など約400人が参加しました。

サミットでは、前年度開催地の佐賀県小城市の江里口市長、次年度開催地の群馬県片品村の千明村長、松田町長ら3名が各自自治体での水環境保全の取り組みを紹介したほか、見城美枝子さん（エッセイスト）の基調講演、町内小・中学校の子どもたちによる学習発表などが行われました。

最後に、「水環境を通じた意識啓発に努めること」「森をはじめとする自然環境の保全に努めること」

「水環境を未来に引き継いでいくこと」を内容とする大会宣言が読み上げられると、会場からはたくさん拍手が送られ、参加者全員の賛同で採択されました。



平成23年7月2日には、県外から全国大会の参加者を対象に、六郷湧水群や「後三年合戦」古戦場などを巡る、オプショナルツアーも開催されました。



大学との連携を開始

平成23年5月13日の秋田大学を皮切りに、平成24年2月16日に秋田県立大学と、平成24年12月17日の国際教養大学と、それぞれ連携協定を締結しました。今後は、町と大学が保有する資源や情報等を活用し、地域活性化を図ってまいります。



長野県東御市と「災害時における相互応援に関する協定(防災協定)」を締結

平成23年10月15日に、長野県東御市と「災害時における相互応援に関する協定(防災協定)」を締結しました。

美郷町と東御市とは、友好都市である東京都大田区の物販イベントなどを通じて交流を深めてきました。今回の防災協定締結により、美郷町、東御市、大田区の3自治体が災害発生時に相互に協力できる体制が整いました。



平成23年度(2011年度)

- 5月13日
 - ・美郷町と国立大学法人秋田大学が「美郷町と国立大学法人秋田大学との連携に関する協定」を締結
 - ・秋田大学と美郷町の連携協定締結記念レクチャーコンサートが行われる
 - ・「学校再編による空き施設等の活用計画」を策定
- 5月31日
 - ・5月25日に大相撲夏場所番付発表で新十両に昇進した、寺田行政区出身の華王錦関が来庁し、町長に昇進を報告
- 7月1日
 - ・全国の名水百選の所在する市町村からなる全国水環境保全市町村連絡協議会の全国大会「名水サミットin美郷」が町公民館で行われる。
- 9月
 - ・読書を推進することで思考力や判断力、表現力を培い、美郷の未来を担う人材を育成するため、小学校、中学校の9年間で読んでほしい本として、「美郷町読書100泉(選)」300冊を選定
- 10月15日
 - ・町と長野県東御市が「災害時における相互応援に関する協定(防災協定)」を締結
- 10月
 - ・「美郷町温泉経営計画」がまとまり、平成24年4月から町内3温泉が新しく設立される会社で一括して経営することとなる。
- 11月23日
 - ・「美郷大使鼎談」美郷のまちづくりを語る「」を名水市場湧太郎で開催
- 12月17日
 - ・美郷町学友館がリニューアルオープン。第2展示室が新設されるなど、設備を充実
- 1月
 - ・空き家などの放置による危険を防止するため「美郷町空き家等の適正管理に関する条例」を施行
- 2月16日
 - ・美郷町と公立大学法人秋田県立大学が「美郷町と公立大学法人秋田県立大学との連携協力協定」を締結

「美郷町」10年の軌跡 平成24年度～平成25年度

心ひとつに明日を拓く 美郷中学校開校

美郷町学校再編計画に基づき、千畑中学校、六郷中学校、仙南中学校の3校が統合して、平成24年4月1日に「美郷中学校」が誕生しました。美郷町で生まれ育つ子どもたちの学び舎となる美郷中学校では、「心ひとつに明日を拓く」を学校教育目標に、一人ひとりが協力し合い、切磋琢磨しながら、さらなる発展を目指しています。



「生薬の里 美郷」構想の実現に向けて 連携協定を締結

皇太子殿下が千畑幼稚園・保育園を視察

平成24年6月1日、皇太子殿下が県内の事情視察の一環として本町を訪問し、全国初の認定こども園である千畑幼稚園・保育園を視察されました。皇太子殿下は、保育体験に参加していた保護者に

園や家庭での子どもの様子や子育ての実情について質問。また、園児から泡で作ったケーキを手渡されると、笑顔でお受け取りになる場面もありました。沿道には、町内外から多くの方々が駆け付け、皇太子殿下を奉迎しました。



白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録

平成25年2月12日、町が農林水産省に品種登録を申請していた白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録されました。今回の登録により、美郷町がラベンダーのオリジナル品種を保有することになりました。「美郷の初夏に美しい雪の結晶（雪華）が見られるように」との思いから名付けられた美郷雪華。毎年可憐な花を咲かせ、美郷町ラベンダー園を訪れる人々の目を楽しませてくれています。



平成24年度（2012年度）

- 4月1日 ・美郷中学校開校
- 4月18日 ・町と横手市が「後三年合戦文化に関わる交流連携協定」を締結
- 5月 ・認定こども園および町内小中学校に通う子どもの保護者を対象とした「安全・安心メーイルシステム」の運用開始
- 6月1日 ・皇太子殿下が県内の事情視察の一環として本町を訪問し、全国初の認定こども園である千畑幼稚園・保育園を視察
- 7月4日 ・秋田大学との連携事業として清水の癒し効果調査を実施
- 8月30日 ・平成26年度に県内で開催される第29回国民文化祭に向けて「美郷町実行委員会」を発足
- 9月1日 ・秋田県立大学による公開講座が名水市場湧太郎で行われる
- 11月28日 ・本町を含む県内12町村が「秋田県町村電算システム共同化に関する協定」を締結
- 12月17日 ・町と公立大学法人国際教養大学が「美郷町と公立大学法人国際教養大学との連携協力協定」を締結
- 12月19日 ・美郷町・大仙市・横手市で「国道13号横手・大曲間4車線化整備促進期成同盟会」を設立
- 12月2月4日 ・「第2期美郷町食育推進計画」を策定
- 2月12日 ・町と社団法人東京生薬協会が「生薬の里美郷」構想実現のための連携協定を締結
- 2月12日 ・町と株式会社龍角散が「株式会社龍角散との地域活性化包括連携協定」を締結
- 3月11日 ・平成22年4月に町が農林水産省に品種登録を申請していた白色ラベンダー「美郷雪華」が品種登録される。
- 3月11日 ・町が六郷まちづくり株式会社が開発支援していた湧水を活用した炭酸水「ニテコ炭酸」が品種登録される。

甘草をはじめとする薬用植物を栽培し、生薬メーカーへの原料供給地を目指す「生薬の里 美郷」構想を実現させるため、平成25年2月4日、社団法人東京生薬協会と連携協定を締結しました。さらに、同協会の藤井隆大会長が社長を務める株式会社龍角散と地域活性化包括連携協定を締結し、地域住民の健康推進や観光・文化振興などに取り組んでいくこととしました。



日本航空株式会社(JAL)と連携協力協定を締結

平成25年4月4日、美郷町と日本航空株式会社(JAL)は、環境保全活動の推進と地域の活性化等を図ることを目的に連携協力協定を締結しました。「水環境保全キャンプ」や「スポーツ交流会」、「ラベンダーまつり」JAL交流会イベント、「JALをらいくーお仕事講座」など、環境、観光、スポーツ、教育など、幅広い分野で町とJALとの交流が行われています。



美郷町イメージキャラクター「美郷のミズモ」に決定

町の魅力や特産品等を効果的に発信し、町のイメージアップにつなげようと、平成25年5月より町公式イメージキャラクターのデザインを募集しました。425点の応募があり、人気投票や選考会を経て、「美郷のミズモ」がイメージキャラクターに決定しました。

美郷町を象徴する「水」をモチーフに、胸からおなかにかけて美郷町のロゴマークをつけ、一度見たら忘れない見た目が特徴の「美郷のミズモ」の魅力を多くの人々に伝えるため町内外のイベントに出演するなど、多方面で活躍しています。



水」が販売開始

平成25年度(2013年度)

- 4月1日
 - ・千畑小学校開校
 - ・仙南小学校開校
- 4月4日
 - ・町と日本航空株式会社が「日本航空株式会社と美郷町との連携協力協定」を締結
 - ・「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」を活用し、県と協働で「県南地域における多様な交流推進による美郷活性化プロジェクト」を立ち上げる
 - ・「生薬の里 美郷」構想実現に向けた生薬(甘草)の試験栽培を開始
 - ・「美郷町清水周辺環境整備検討会」を設置
 - ・チャレンジデー2013に初参加
 - ・在京六郷会、千畑ふるさと会、仙南ふるさと会が一体となり「秋田・美郷町ふるさと会」を設立、初総会を開催
 - ・六郷幼稚園・保育園新園舎落成式を行う
 - ・美術評論家で文化勲章受章者の高階秀爾さんが美郷大使に就任
- 9月
 - ・美郷町の公式イメージキャラクターを「美郷のミズモ」に決定
- 10月12日(14日)
 - ・秋田アステイネーションキャンペーンの一環として、SL秋田こまち号が奥羽線秋田駅と横手駅間を運行し、後三年駅に停車する
 - ・「美郷町清水周辺環境整備・保全計画」を策定
- 10月
 - ・美郷雪華の花弁から分離培養した酵母を「美郷雪華酵母」として商標登録を出願
 - ・「美郷町日本酒による乾杯を推進する条例」を施行
- 2月
 - ・美郷雪華を使用したルームフレグランスが完成し、商品発表会を開催
- 3月1日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト『冬の部』」の受賞ポイントを決定
- 3月3日
 - ・美郷雪華を使用したルームフレグランスが完成し、商品発表会を開催
- 3月31日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト『冬の部』」の受賞ポイントを決定

「美郷町」10年の軌跡 平成26年度

北海道中富良野町と交流を開始

町の花「ラベンダー」のつながりで、ラベンダーの本場である北海道中富良野町と交流することになりました。

平成26年5月9日には、松田町長が北海道中富良野町を訪問して美郷雪華の苗150株を寄贈。5月21日には、同町の木佐町長が美郷町を訪れ、同町で育ったラベンダーの苗150株が贈呈されました。町外のラベンダー園で美郷雪華が紹介されることで、観光客などに美郷町のことを知っていただき、美郷町を訪れるきっかけになればと期待しています。



▼北海道中富良野町の町営ラベンダー園



今後も町の花のラベンダーを中心に、さまざまな角度から交流を図っていきま

「アクアJAZZフェスティバル in MISOATO」が盛大に開催

芸術文化の祭典「第29回国民文化祭あきた2014」の開催に伴い、美郷町では「水」と「ジャズ」をテーマに「アクアJAZZフェスティバル in MISOATO」を実施しました。

平成26年10月12日には、観光休憩所清水の館、名水市場湧太郎、道の駅雁の里せんなんの3会場に分かれて「街かどコンサート」を開催。道行く人々にジャズの音色を届けました。

10月13日には、美郷総合体育館リリオスで「JAZZコンサート」を開催し、県内外からビッグバンドが集結。また、世界的なジャズ・トランプ奏者である日野皓正さんが特別ゲストで登場し、美郷ジャズオーケストラのメンバーらと共に演奏しました。各バンドの迫力ある演奏に集まった観客が盛大な歓声と拍手を送るなど、会場内が一体となって音楽を楽しみました。



平成26年度（2014年度）

- 4月1日
 - ・生涯学習活動やボランティア活動の拠点施設「美郷町住民活動センター」がオープン
 - ・美郷町消防団が14分団から9分団に再編される
- 4月9日
 - ・美郷町鳥獣被害対策実施隊を設置し、町内猟友会員31名に委嘱状を交付
- 5月9日
 - ・松田町長が北海道中富良野町に訪問し、町のオリジナル品種「美郷雪華」の苗150株を贈呈
- 5月11日
 - ・古着・古布回収を初実施
- 5月21日
 - ・北海道中富良野町長が来町し、同町で育ったラベンダーの苗150株を町へ贈呈
 - ・チャレンジデー2014に参加
- 5月28日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「坂本東嶽邸 初夏の宴」を開催
- 6月7日
 - ・美郷町合併10周年事業「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト『春の部』」の受賞ポイントを決定
- 6月9日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト『春の部』」の受賞ポイントを決定
- 6月18日
 - ・町と株式会社山崎帝國堂が「株式会社山崎帝國堂との連携合意」を締結
- 6月24日
 - ・美郷雪華酵母による日本酒「ラベンダー酵母W-2」の販売発表会を開催
- 6月26日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「野村万蔵の会による狂言公演」を開催
- 7月20日
 - ・美郷町合併10周年記念事業として美郷大使の高階秀爾さんによる「文化講演会」を開催（10月13日）
- 8月9日
 - ・第29回国民文化祭・あきた2014
- 8月15日
 - ・「水輪廻II〜ゆく河の流れは絶えずして〜千葉克介写真展」を美郷町学友館で開催
 - ・平成26年2月に町が商標登録を出願している

「癒しと潤い」を提供
美郷雪華コレクション2014

魅力ある美郷の風景ポイントが決定

美郷町の知られざる素晴らしい風景を発掘し、ふるさと再発見と町内外の皆さんへ広くアピールするために実施した「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト」。応募された写真をもとに、審査員が現地を審査し、魅力ある風景ポイントを決定しました。四季別に表彰する本コンテストでは、平成26年10月の時点で「冬の部」「春の部」「夏の部」の3部門が実施済みとなっています。なお、「秋の部」は平成26年11月に決定する予定です。



冬の部 最優秀賞「雪原の朝」
撮影場所／美郷町浪花字吐出



春の部 最優秀賞「V字溪谷の春紅葉」
撮影場所／美郷町千屋善知鳥川堰堤付近



夏の部 最優秀賞「真昼岳涼風」
撮影場所／美郷町浪花字中川原

美郷雪華の花弁から分離培養した酵母「美郷雪華酵母」が、平成26年8月15日に商標原簿に登録されました。

美郷雪華酵母を使用した「純米原酒ひやおろし」と、美郷雪華を使用した2014年産「ルームフレグランス」を「美郷雪華コレクション2014」と名付け、平成26年10月3日に商品発表会を行いました。

美郷町の新たな特産品をコレクション化する中で、美郷町の持つイメージ「癒しと潤い」をテーマに、町の認知度や魅力のPRにつなげていきます。



- 9月4日
 - ・第51回秋田県消防操法大会小型ポンプ操法の部で美郷町消防団第2分団が初優勝
 - 9月16日
 - ・美郷町合併10周年記念事業「美郷の風景写真で魅力探索コンテスト『夏の部』」の受賞ポイントを決定
 - 10月3日
 - ・「美郷雪華」から採取した美郷雪華酵母による「純米原酒冷やおろし」および2014年産の「美郷雪華ルームフレグランス」が完成し、これら商品を「美郷雪華コレクション2014」として商品発表会を開催
 - 10月12日（～13日）
 - ・第29回国民文化祭・あきた2014「アリア JAZZ フェスティバル in MISAATO」美しきNostalgie（郷愁）を開催し、ジャズ・トランペット奏者の日野皓正さんを特別ゲストに迎える
 - 11月1日
 - ・美郷町合併10周年記念式典を開催
- た「美郷雪華酵母」が商標原簿に登録される

年の施設整備

明日の美郷のために「融和と前進」

公共施設・学校施設を再編

町を取り巻く財政状況の変遷を見据え、行政サービスの水準を維持しながら、保有する公共施設を機能別に最適化し、美郷町にふさわしい体制を整備する「美郷町公共施設再編計画」を平成21年度に策定しました。

再編のポイント

公共施設の再編については、「①規模が大きくなって新しい施設は使い切る」、「②施設の立地条件を考慮する」、「③地域バランスに配慮し、人が集うような場所を選択する」という視点を重視しました。その上で、財政効率化の実現と美郷町の一体感の醸成を目指しました。

役場庁舎は千畑庁舎に集約

三つある役場庁舎は、千畑庁舎に機能を集約させた統合庁舎とし、美郷町学友館、美郷町公民館に出張所を設置して窓口機能を持たせました。保健センターについては、六郷保健センターを美郷町保健センターとして、機能を集約させました。公民館については、仙南公民館を美郷町公民館として、機能を集約させました。

空き施設の有効活用

役場庁舎統合により空き施設となった六郷庁舎と仙南庁舎は、それぞれ美郷町中央行政センター、美郷町南行政センターとし、他団体へ施設を貸与しました。また、仙南保健センターについては、仙南土地改良区へ貸与しました。



■美郷町役場



■美郷町学友館



■美郷町公民館



■美郷町保健センター



■美郷町南行政センター



■美郷町中央行政センター

「美郷町」10

子どもたちの教育環境を整備

全国的に少子化が進む中、新しい時代を担う美郷の子どもたちにとって望ましい教育環境を整備し、適正な学校規模の実現を目指すため、美郷町学校再編計画に基づいて、小・中学校の統廃合を行いました。
また、六郷幼稚園・保育園（わくわく園）は、六郷安楽寺にあった園舎の老朽化に伴い、美郷中学校南側に建設された新園舎に平成25年

度に移転しました。
これにより、町内3幼稚園・保育園、3小学校、1中学校の体制が整いました。整備された施設を活用し、町では今後も「豊かな人間性を育み、将来の美郷を担う『みさとの子』の育成」を目指します。

空き校舎や敷地の有効活用

学校の統廃合により空き校舎となった旧千畑中学校は、生涯学習や集会など多目的に利用できる美郷町北ふれあい館として、平成24年度にオープンしました。
旧六郷東根小学校、旧仙南西小学校、旧金沢小学校の3校は、平成25年度から企業用施設として貸し出ししました。
旧仙南東小学校は、各種大会や合宿にも利用できる交流拠点施設「美郷町宿泊交流館」として平成27年度のオープンを目指しています。

旧千畑南小学校は、美郷町歴史民俗資料館（仮称）として平成27年度のオープンを目指しています。また、旧千畑南小学校のグラウンド敷地を活用し、地域の憩いの場となる薬樹を中心とした公園「平場の森」の整備を進めています。平成30年度までの5年間をかけて、さまざまな薬樹の植栽に取り組んでいきます。

・千畑中学校
・六郷中学校
・仙南中学校

平成24年度開校
美郷中学校



(旧六郷中学校校舎)

・六郷小学校
・六郷東根小学校

平成22年度開校
六郷小学校



(旧六郷小学校校舎)

・千屋小学校
・千畑南小学校

平成25年度開校
千畑小学校



(旧千屋小学校校舎)

・仙南東小学校
・仙南西小学校
・金沢小学校

平成25年度開校
仙南小学校



(旧仙南中学校校舎)



■美郷町宿泊交流館完成イメージ



■平場の森完成イメージ

深まる交流・備える安全

美郷町と他団体との協定

美郷町では、公共施設や学校施設などのハード面の整備のほか、10年間でさまざまな団体と協定を締結し、ソフト面の強化も進めています。

協定の内容は、観光や交流、環境・防災・文化・芸術・教育など多岐にわたります。こうした協定を生かし、町の将来像「町民誰もが住んでよかった、住み続けたいと思えるまち」の実現に向けて、今後も施策・事業を推進していきます。

官学連携

秋田大学とは、町の貴重な資源である「水」をテーマに水環境保全事業に取り組んでいるほか、教育・芸術・産業の振興と健康づくりに関する取り組みを共同で行っています。秋田県立大学とは、農業技術の支援や各種セミナーの開催、国際教養大学とは、美郷町の子どもたちと大学生との国際交流などに取り組んでいます。

協定の名称	締結団体等の名称	協定の締結日
美郷町と国立大学法人秋田大学との連携に関する協定	国立大学法人 秋田大学	平成23年 5月13日
美郷町と公立大学法人秋田県立大学との連携協力協定	公立大学法人 秋田県立大学	平成24年 2月16日
美郷町と公立大学法人国際教養大学との連携協力協定	公立大学法人 国際教養大学	平成24年12月17日

魅力創出

全国の自治体で初めて日本航空株式会社と連携協力協定を結んだ美郷町。また、社団法人東京生薬協会との協定に基づく“生薬の里 美郷”構想など、いずれの協定も美郷町の特色づくりにつながっています。人的交流や資源の交流を推進し、美郷町の新たな魅力の創出に向けた取り組みを行っています。

協定の名称	締結団体等の名称	協定の締結日
美郷町と横手市との後三年合戦文化に関わる交流連携協定	横手市	平成24年 4月18日
“生薬の里 美郷”構想実現のための連携協定	社団法人 東京生薬協会	平成25年 2月 4日
株式会社龍角散との地域活性化包括連携協定	株式会社龍角散	平成25年 2月 4日
日本航空株式会社と美郷町との連携協力協定	日本航空株式会社	平成25年 4月 4日
美郷町と株式会社山崎帝國堂との連携合意	株式会社 山崎帝國堂	平成26年 6月18日

安全・安心

災害時を想定し、電気・通信・水道・ガス・建物などのインフラの復旧に関する協定のほか、傷病者や要援護者支援に関する協定を結んでいます。

また、大仙警察署や郵便局と高齢者の犯罪被害防止や見守りに関する協定を結び、住民生活の安心感の向上にも取り組んでいます。

協定の名称	締結団体等の名称	協定の締結日
災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定	東京都大田区	平成17年11月 5日
無線通信協定	合資会社黒銀タクシー	平成18年 9月29日
無線通信協定	千屋タクシー株式会社	平成18年 9月29日
無線通信協定	みちのくスーパーローカル ハムクラブ	平成18年 9月29日
無線通信協定	美郷観光タクシー有限公司	平成18年 9月29日
生活物資供給協定	美郷町商工会	平成18年10月23日
応急対策活動協力協定	美郷町建設業協会	平成19年 9月18日
災害時における相互協力協定	東北電力株式会社大曲営業所	平成20年11月17日
災害復旧時の協力に関する協定	東日本電信電話株式会社 秋田支店	平成21年 8月 4日
災害時管工事等応援協定	大仙・美郷管工事組合	平成22年 5月10日
災害時電気工事等応援協定	大曲仙北電気工事協同組合	平成22年 5月10日
災害時における防災活動及び平常時における防災活動への協力に関する協定	イオンスーパーセンター 株式会社	平成23年 5月11日
災害時における東御市と美郷町との相互応援に関する協定	長野県東御市	平成23年10月15日
災害時における秋田県及び市町村相互の応援に関する協定	秋田県及び市町村相互	平成24年 1月20日
災害時におけるし尿等の収集運搬に係る協定	秋田県環境整備事業協同組合 県南支部大仙美郷業者会	平成24年 6月19日
災害時における応急医療救護活動に関する協定	美郷町医療協議会	平成24年 9月13日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	大仙美郷介護福祉組合	平成24年 9月18日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	社会福祉法人六郷仙南福祉会	平成24年 9月18日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	医療法人寿康会	平成24年 9月18日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	社会福祉法人水交会	平成24年 9月18日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	社会福祉法人慈泉会	平成24年 9月18日
災害時における要援護者の施設への入所等に関する協定	社会福祉法人 美郷町社会福祉協議会	平成24年 9月18日
秋田県と美郷町の道路ネットワークに係る協働内容に関する覚書	秋田県知事	平成25年 4月 1日
災害協力に関する協定	株式会社秋田銀行	平成25年 4月 9日
災害協力に関する協定	株式会社北都銀行	平成25年 4月23日
災害時における緊急物資輸送及び緊急物資拠点の運営等に関する協定	ヤマト運輸株式会社 秋田主管支店	平成25年 6月17日
ささつな自治体協議会防災研究・災害支援協定	ささつな自治体協議会	平成25年 7月 1日
美郷町高齢者犯罪被害及び高齢者交通事故警戒警報の発令に関する協定	大仙警察署	平成25年10月15日
美郷町と大曲郵便局及び美郷町内郵便局との高齢者等見守り活動の相互協力及び道路等破損箇所発見時の対応に関する協定	大曲郵便局	平成25年11月 7日
災害時等における相互協力に関する協定	大仙警察署	平成25年12月12日
災害時における液化石油ガス及び応急対策用資機材の調達に関する協定	秋田県LPガス協会	平成26年 3月26日

町章



ひらがなの「み」を抽象化し、「希望」「飛躍」「親睦」を表現したデザイン

町民憲章

私たちは
自然を愛し
心豊かに健やかに
未来にひらく
美しいまちを
ともにつくります

趣旨

美郷町は東に奥羽山脈、西に仙北平野が広がる肥沃な土壌と豊富な水資源に恵まれた町です。

この豊かな自然環境を大切にし、心身ともに健康で活力にあふれ、先人から受け継がれてきた伝統と文化を育み、未来に向けてさらに豊かで美しい町をお互いに尊重し支え合いながらつくっていくというものです。

町の木・花・鳥・魚



木

は「赤松」。本町全域に広く見受けられ、特に千屋の松杉並木は新日本街路樹百景に選定されるなど、他の市町村に誇れるシンボルです。



花

は「ラベンダー」。本町には約2ヘクタールにも及ぶラベンダー園があります。壮大で美しく、甘い香りは本町のイメージにふさわしいものです。



鳥

は「雁(かり)」。本町は「後三年の役」合戦の古戦場でもあり、「雁行の乱れ」の逸話は広い世代に知られており、歴史的にも本町にふさわしいものです。



魚

は「ハリザッコ」(イバラトミヨ)。本町の清水等に多く見受けられ、美しい郷にふさわしいイメージがあります。

美郷町民歌

光あふれて

作詞 滝田常晴
作曲 津雲 優

一 仰ぐ奥羽の山並みに

夢はひろがる 雲は飛ぶ
松のみどりは 枝を張り
花の香りに 包まれて

美郷は幸せ 拓くまち
ここに光は あふれわく

二 歴史受け継ぐ この大地

豊かなみのり もたらして
渡り鳥さえ 慕い寄る
トミヨきらめき 水は澄む

美郷はよろこび 招くまち
ここに光は あふれわく

三 ふれあう心 あたたかく

人と自然の 支え合い
合わせる力 たくましく
ゆくてたのしく 伸び進む

美郷は未来を 創るまち
ここに光は あふれわく

「広報美郷」は美郷町のホームページでも公開しています。 <http://www.town.misato.akita.jp>